



令和4年度大企業のサプライチェーン全体の 脱炭素化推進事業

事業概要

2022年6月20日
地球環境局地球温暖化対策課
脱炭素ビジネス推進室



- サプライチェーン (SC) 全体での温室効果ガス (GHG) 排出量の抜本的な削減を目指す企業を対象に、目標実現に向けた具体的な対策の検討、及び実行計画の策定を支援

背景

- 我が国は、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言。その実現のためには、主要な排出源である産業界の取組を加速化させることが必須
- 意欲的な先進企業の間では、パリ協定¹に整合した削減目標であるSBT²等の設定が増加している。我が国でも164社が取得
- SBT目標を達成するためには、自社のみならずSC排出 (Scope3) も含めた抜本的な削減が求められているため、具体的な削減対策の検討/計画策定に苦慮している企業も多い
- 日本企業の脱炭素経営を推進していくためには、SCの脱炭素化に取り組むノウハウを確立していくことが必要

事業の目的と実施内容

- 我が国でのSCの排出削減のロールモデル企業を創出するとともに、幅広い企業にノウハウを横展開する。それにより、産業界の更なる排出削減に向けた機運を高める
- その実現のため、本事業では、以下の2つの取組を行う

① モデル企業支援

削減対策や計画策定を支援し、先進的なロールモデルを創出

② 知見のマニュアル化

モデル企業支援で得られた知見等をマニュアル化して他企業に横展開



過年度までの成果と今年度の取組

- 過年度までに15社の対策の検討及び計画策定を支援し、ガイドブックとしてノウハウを取りまとめ
- 今年度は4社程度を支援してロールモデルを創出すると共に、過年度に作成したガイドブックを改訂

2021年度までの成果

モデル企業支援



15社の削減対策の検討/計画策定を支援し、排出削減計画の策定ロールモデルを創出

- ・ アスクル
- ・ 小野薬品工業
- ・ サントリーHD
- ・ セイコーエプソン
- ・ ユニ・チャーム
- ・ 東急不動産HD
- ・ 日清食品HD
- ・ ファミリーマート
- ・ ベネッセ
- ・ 明電舎
- ・ アシックス
- ・ 塩野義製薬
- ・ フジクラ
- ・ 大成建設
- ・ セブン&アイHD

2022年度の取組予定

4社程度の支援を通じ、SCの排出削減のロールモデルを創出

削減計画策定 ガイドブックの作成

支援を通じて得たノウハウ等をガイドブック化

- 第0章 経営課題としてのGHG排出削減の重要性を理解する
- 第1章 排出削減に向けた将来の事業環境変化を見通す
- 第2章 自社のGHG排出の現状と今後の見通しを把握する
- 第3章 排出削減のための取組を構想する
- 第4章 SBT達成に向けたロードマップを策定する
- 第5章 自社の取組を社内外のステークホルダーに伝える

ガイドブックは、環境省ウェブサイトに掲載中
「SBT等の達成に向けたGHG排出削減計画策定ガイドブック」
<http://www.env.go.jp/earth/datsutansokeiei.html>



本モデル事業の結果を踏まえて、
「SBT等の達成に向けたGHG排出削減
計画策定ガイドブック」を改定

参加形態ごとの概要

- 取組レベルに応じ、3つのタイプから選択して応募。成果物や参加要件が異なる
- 過年度まではType Aの取組を中心に支援をしてきたが、今後はType BとType Cにも拡大し、SC全体における脱炭素をさらに推進していく見込み。今年度は特にType Bを主眼に事業を行う予定

取組レベルの進化



Type A.
個社が主導する
SC排出削減

参加形態 個社単独での参加

成果物 Scope3排出量の削減に向けた具体的な対策及び実行計画

- 参加要件
- ・ 本事業へのコミットメント
 - ・ 削減計画検討に必要な情報
 - ・ ロールモデルとしての波及効果



Type B.
SC排出削減のモデル化と
その横展開

個社とSC企業との共同参加

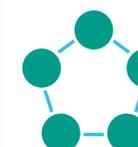
- ・ 例) 小売りとサプライヤー企業
- ・ 例) メーカーと顧客企業

SC企業との共同検討に基づいた、Scope3排出削減の実行計画

- ・ サプライヤーもしくは顧客エンゲージメントの"型"
- ・ 横展開を推進するための仕組み

Type Aの要件に加えて、

- ・ 自社のSC企業 (サプライヤー、顧客企業) との共同での応募



Type C.
SC排出削減のための
エコシステム¹形成

業界としてSC排出削減の検討をリードできる企業群での参加

- ・ 例) 同業他社との共同応募

特定のScope3削減テーマに関する、エコシステム創出に向けた実行計画

- ・ 業界標準、基準の設定
- ・ 共同購買、共同配送 等

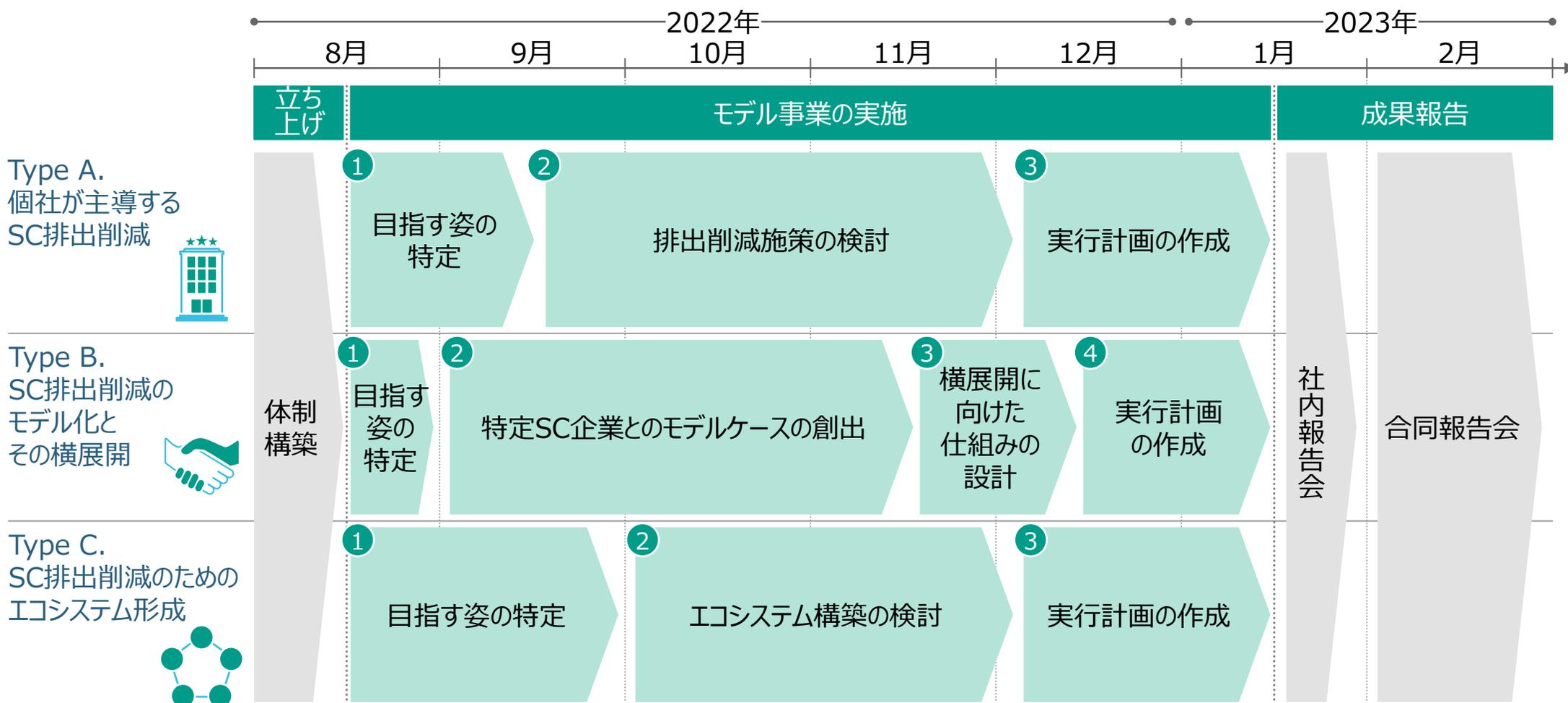
Type Aの要件に加えて、

- ・ 同業他社やSCの上流プレイヤー等との共同での応募

1. 本事業における「エコシステム」とは、SCの排出削減に向け、複数の企業が企業の垣根を越えて協業している状態を指す

参加企業の取組内容・スケジュール

- 参加形態ごとに、取組内容・スケジュールが異なる
- なお、各ステップの進め方は標準的なものとして以下を想定しているが、各社の検討経緯や要望を踏まえ、参加企業ごとに調整予定



Type A. 参加企業の取組内容

- 参加企業にとって、排出削減に取り組む経営戦略上の意義・目的を整理した上で、排出削減目標の達成に必要なSC全体での削減対策を見出し、その実行計画を取りまとめ

① 目指す姿の特定

アクション



- 脱炭素経営に取り組む経営戦略上の目的や意義を明確化
- SC排出量の現状と今後の見通しを把握し、目標達成に必要な削減量を特定

② 排出削減施策の検討

- SC全体での排出削減の具体的な打ち手を抜本的な対策を含めて幅出し
- その上で打ち手を評価し、優先的に実施するものを決定

③ 実行計画の作成

- 目標達成に向けた実行計画をロードマップとして明確化
- 全社戦略や対外コミュニケーションにどのように接続するかを明確化

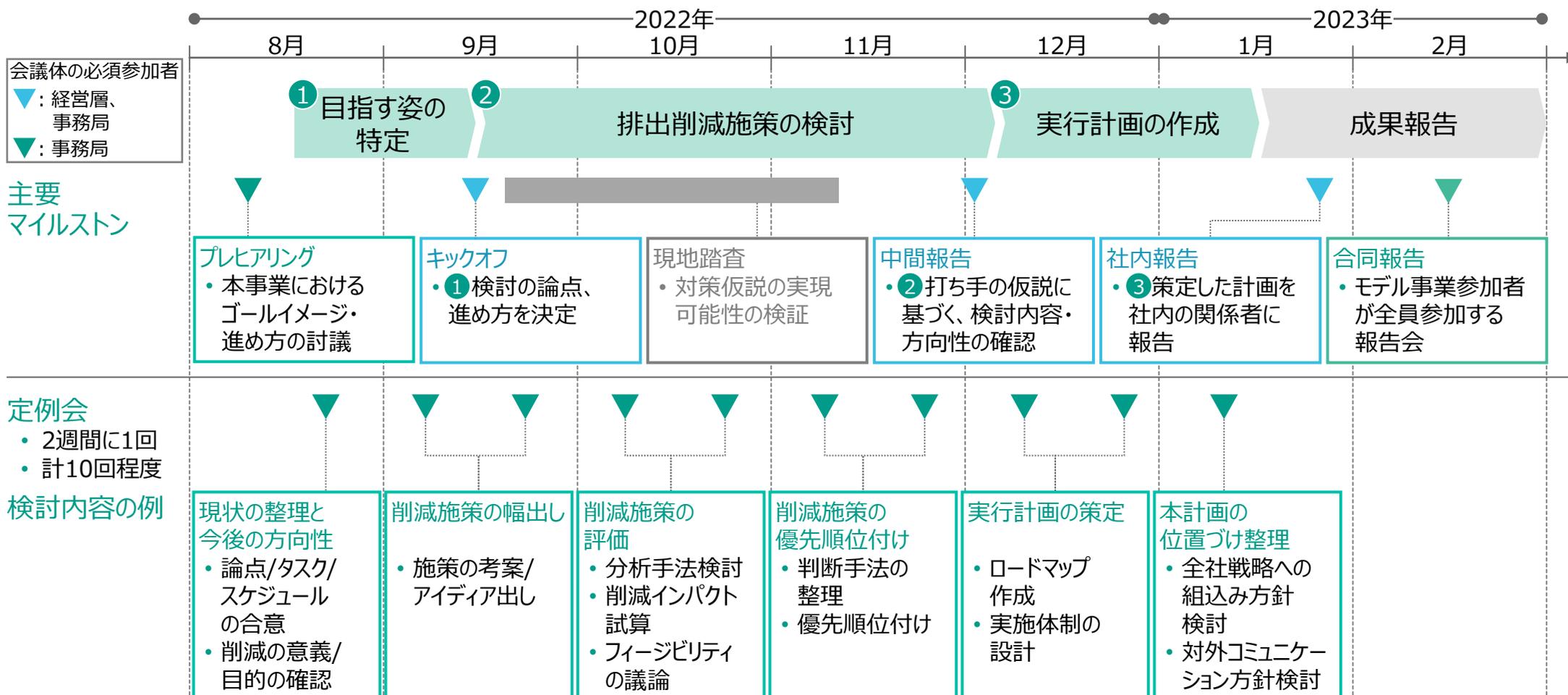
検討論点



- なぜ排出削減に取り組むのか？ 排出削減により何を実現することを目指すのか？
- 現状のSC排出量・排出源や、目標年における成り行き見込みの排出量はどの程度か？
- 目標達成には、排出削減を追加でどの程度実現する必要があるか？
- 目標達成に向けた課題は何か？ 課題解決に向け、どのような取組をしてきたか？
- 先進企業の取組や社内での検討も踏まえて、検討余地がある打ち手は何か？
- 各打ち手の優先順位をどの様につけるか？
- 着実に排出削減を進めるために、誰がいつまでに何を実施していくか？ (今後実施を検討する打ち手も含む)
- どのタイミングで、誰が何を判断基準として、ロードマップの見直しを行うか？
- 社内外のステークホルダーに対して、どのように削減の取組を伝えるか？

Type A. 本事業の実施スケジュール

- BCGの支援を受けつつ、参加企業が約6ヶ月間に亘り対策を検討、削減計画を策定
- 社内報告会やモデル事業参加企業との合同報告会により、得られた成果・ノウハウを共有



注: 実際の進め方は、各社の検討状況や支援ニーズに応じて決定

Type B. 参加企業の取組内容

- 参加企業がSC企業（サプライヤー・顧客企業）と連携してSC排出削減のモデルケースを創出し、その取組を"型"として標準化して、他のサプライヤーへ横展開するための実行計画を取りまとめ

① 目指す姿の特定

アクション



- 自社及び自社の主要なSC企業¹にとって、排出削減に取組む意義・目的を明確化
- 自社の目標達成のために、SC企業のエンゲージメントがどのような位置づけにあるかを明確化

検討論点



- 自社はなぜ排出削減に取組むのか？ 排出削減により何を実現することを目指すのか？
- 自社の削減目標の実現に向け、自社SC企業のエンゲージメントを行う意義は何か？
- SC企業にとって、排出削減をする必要性・意義はどうか？

② 特定SC企業とのモデルケースの創出

- 特定SC企業（共同参加する自社SC企業）と、排出削減のモデルケースを創出
 - 排出量・排出源の特定
 - 排出削減目標の設定
 - 削減施策の特定
 - 実行計画の策定

- 主要な排出量ほどの程度で、排出源は何か？
- どの程度の排出削減目標を設定するか？
- どのような打ち手によって削減を実施するか？
- 今後どのように削減を実施し、進捗を管理していくか？

③ 横展開に向けた仕組みの設計

- モデルケースの取組を"型"として標準化した上で、モデルケース以外のSC企業に横展開するための仕組みを構築

- SC企業には排出削減に向け、どのような支援ニーズがあるか？
- ニーズを踏まえ、モデルケースをどのような"型"として標準化するか？
- "型"を横展開するための仕組みは？

④ 実行計画の作成

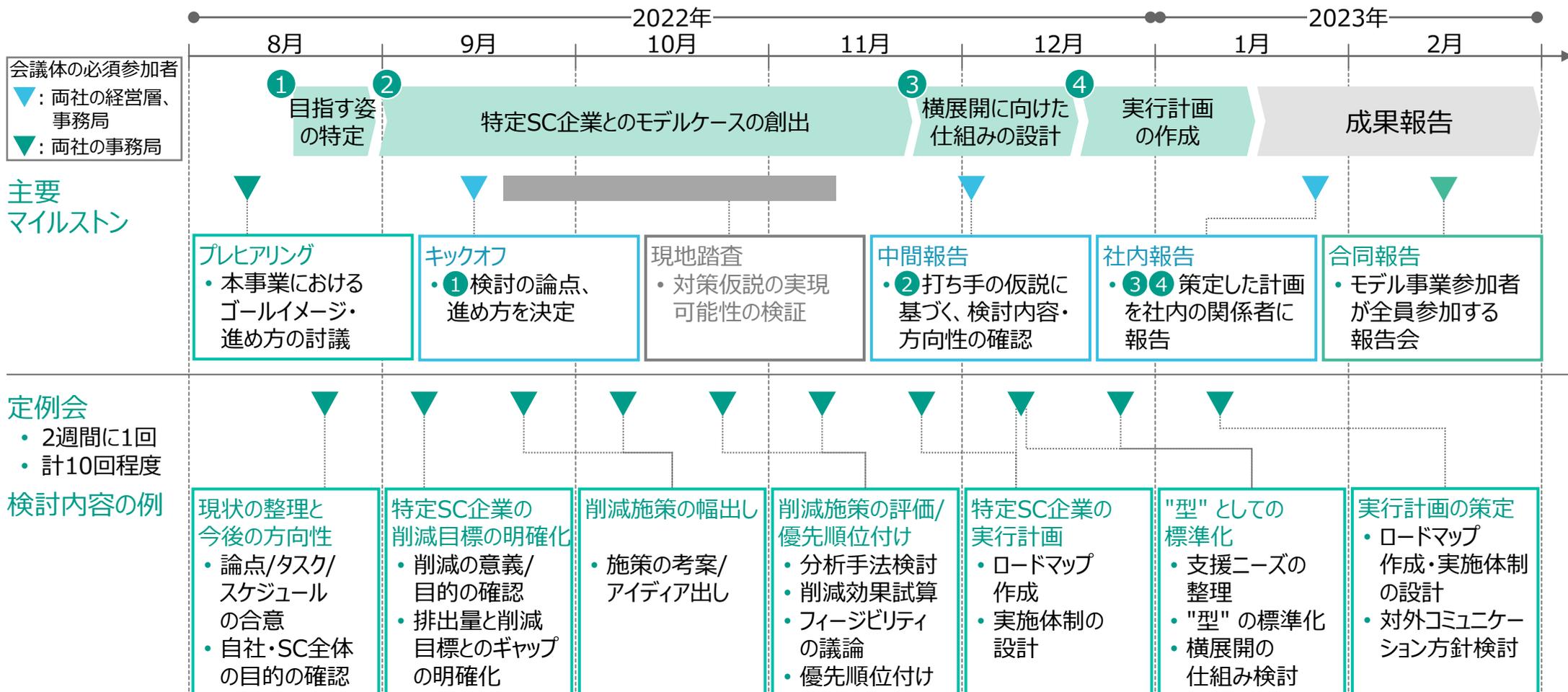
- 横展開するために必要な体制整備や対外コミュニケーション等も含め、実行計画を取りまとめ

- 横展開の進め方や実施時期のロードマップは？
- 社内での計画実施体制や、進捗管理の進め方は？
- 全社戦略への反映や、対外発信の方針は？

1. 自社と直接取引をする主要なSC企業のこと。直接取引をするSC企業群にとって、自社が求める脱炭素に協力をする目的・意義を明確化

Type B. 本事業の実施スケジュール

- BCGの支援を受けつつ、参加企業が約6ヶ月間に亘り対策を検討、削減計画を策定
- 社内報告会やモデル事業参加企業との合同報告会により、得られた成果・ノウハウを共有



注: 実際の進め方は、各社の検討状況や支援ニーズに応じて決定

Type C. 参加企業の取組内容

- SC排出削減に関する企業横断の共通の課題に対して、複数企業で協調して取組むテーマを設定し、その排出削減の実現に向けたエコシステムを構築するための実行計画を取りまとめ

① 目指す姿の特定

アクション



- 企業横断で排出削減の取組を行う意義・目的を明確化
- 企業横断で協調して検討するSC排出削減のテーマを選定

② エコシステム構築の検討

- 排出削減目標達成に必要なエコシステムの構築に向け、企業横断での具体的な施策を検討

③ 実行計画の作成

- エコシステムを構築するために必要な体制整備等も含め、実行計画を取りまとめ

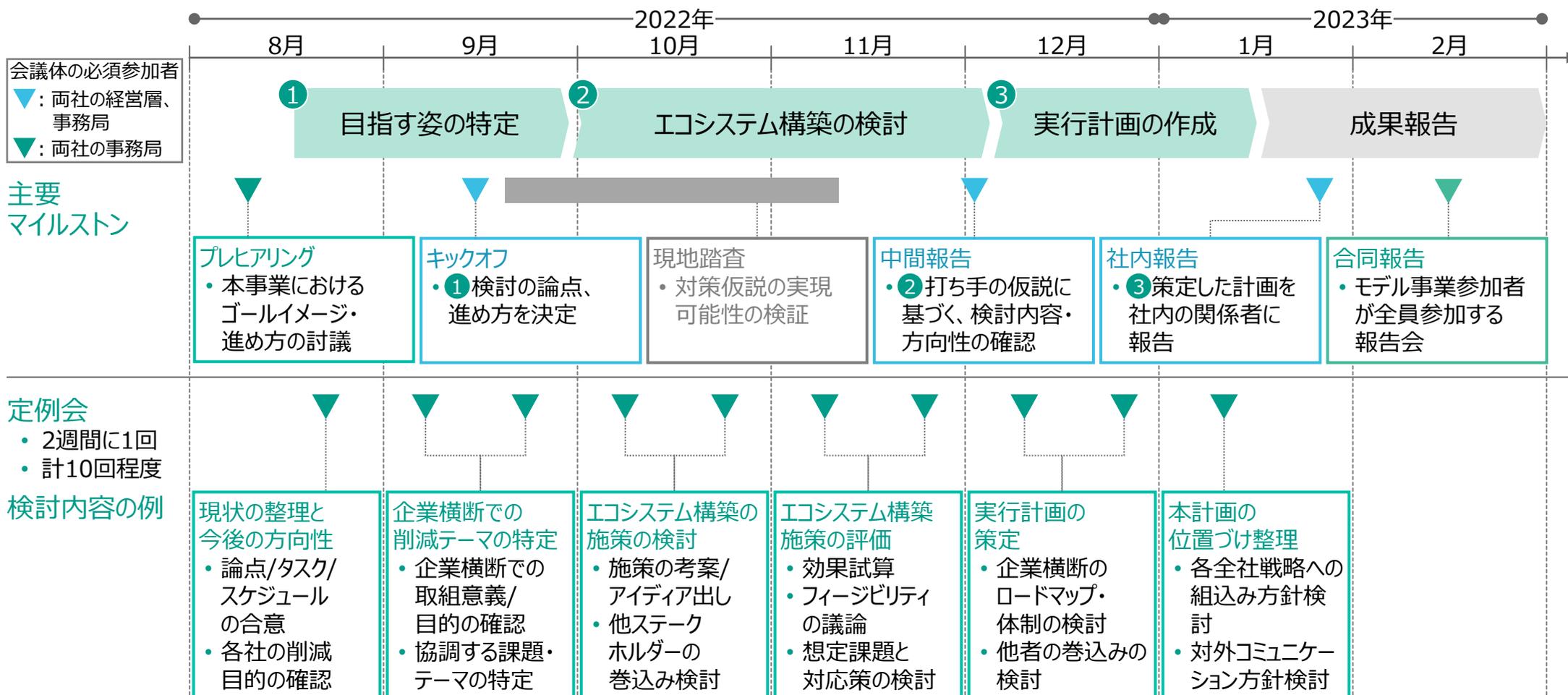
検討論点



- 参加企業各社はなぜ排出削減に取り組む必要があるか？
- 企業横断でのSC排出削減により、何を実現するのか？
- 参加企業共通の課題として、協調して取り組むべき排出削減のテーマは何か？
 - 業界主導による標準策定/アドボカシー？
 - 購買グループの規模拡大によるサプライヤーのコミット増幅？
- 具体的にどのようなエコシステムを構築するか？
- エコシステムがもたらす想定効果は？業界に対してどのような変革をもたらすか？
- 他にどのようなステークホルダーを巻き込むと効果的か？
- 構築に際しての課題は何か？その課題の解決策は？
- エコシステム構築の進め方や実施時期のロードマップは？
- 企業横断での計画実施体制、意思決定プロセス、進捗管理の進め方は？
- 社内外のステークホルダーに対して、どのようにエコシステムを発信し、巻き込んでいくか？

Type C. 本事業の実施スケジュール

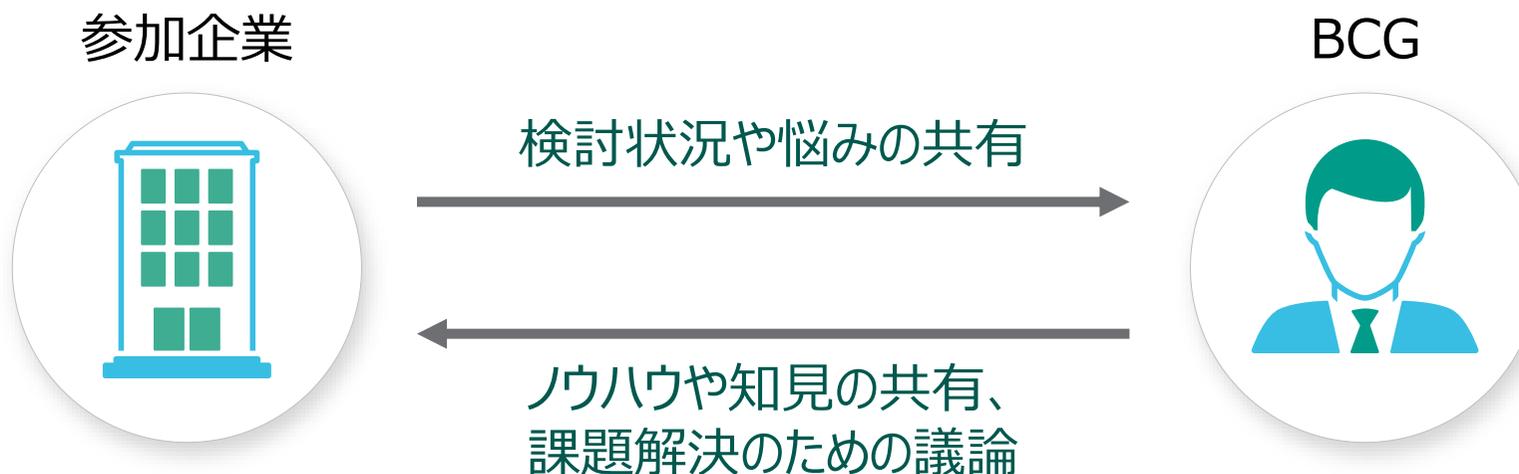
- BCGの支援を受けつつ、参加企業が約6ヶ月間に亘り対策を検討、削減計画を策定
- 社内報告会やモデル事業参加企業との合同報告会により、得られた成果・ノウハウを共有



注: 実際の進め方は、各社の検討状況や支援ニーズに応じて決定

参加企業に求められる役割

- 参加企業は、BCGの支援を受けつつ、自らが主体的に検討を進めることでノウハウを習得
- 本事業の参画には、検討に必要な体制の構築と、経営層のコミットメントが必要不可欠



実施内容

- 必要に応じて関連部署を巻き込み、情報収集/分析/施策・実行計画の検討
- 施策や実行計画に対する経営層から承認の取得

支援内容

- 先進企業のベストプラクティスの紹介
- 経営陣との議論を通じた方向性の明確化
- 検討の進め方や内容に関するアドバイス
- 作成すべきアウトプットイメージの提示 等

事業者選定で考慮する内容

■ SCの排出削減に取り組むモデル企業を創出するという趣旨に鑑み、以下の観点を考慮して採択する企業を決定する

✔ : 必須要件 ◯ : 満たすことが望ましい要件

取組みレベルの進化

		Type A.	Type B.	Type C.
本事業へのコミットメント 	• SBT等のSCを含めた排出削減目標を設定済み (あるいはコミット中)	✔	✔	✔
	• CEO等の経営トップも含めて本事業に取り組むコミットをしている	✔	✔	✔
	• 主体的に計画策定をする体制を構築 (必要な人員・時間等のリソースを確保) し、会社として ¹ 関係部署を巻き込み業務を実施する意欲を持っている	✔	✔	✔
現時点での準備状況 	• Scope別の排出量等、検討の基礎となるデータがある	✔	✔	✔
	• Scope1/2の排出削減計画を策定済みである	◯	✔	✔
	• SCの排出削減のために協力する具体的な協業相手の目途がついている	◯	✔	✔
	• 業界横断で情報共有する予定がある	-	-	✔
削減インパクト 	• 本事業の中で詳細に検討したい排出削減施策のアイデアがある	◯	✔	✔
	• 上記のアイデアがSCの排出削減に大きな効果が期待できる	◯	✔	✔
	• 業界全体への波及効果が期待できる	◯	◯	✔
ロールモデルとしての波及効果 	• モデル事業の成果を、経営層や関連部門が参加する「社内報告会」で報告する。また、モデル事業に参加した企業で成果を発表し、情報を共有する「合同報告会」に参加する	✔	✔	✔
	• 自社の取組について削減計画策定ガイドブック等に掲載することに協力する	✔	✔	✔
	• 過年度に本モデル事業に参加した企業と異なる業種である、もしくは、取組の新規性がある ²	✔	✔	✔

1. 持ち株会社が応募する場合は、グループ全体で関係部署を巻き込み業務を実施する 2. 過去の支援企業は、P.2に掲載

参考) 参加形態ごとの申請方法

- Type B とType Cは、"主たる参加企業"が申請を取りまとめ、本事業の運営を担当するBCGとの窓口を担う想定



参加企業
の関係性

自社のScope3排出削減の実行計画を策定したい
"主たる参加企業"が、モデルケースとなる主要SC企業
のうちの1社と、共同参加



業界としてSC排出削減の検討をリードできる2社以上の
企業が参加

- 異業種の企業やNPO/NGO等の団体との参加も
可能

"主たる
参加企業"
の位置づけ



"主たる参加企業"



主たる参加企業の
主要SC企業のうちの1社



"主たる参加企業"



...



協業して検討する参加企業
(最低1社)

